

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第2回登米市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和6年8月27日(火) 18時 30分 開会 20時 00分 閉会
開 催 場 所	登米市役所南方庁舎 2階 大会議室
議 長(委 員 長 又 は 会 長) の 氏 名	登米市特別支援教育連携協議会 委員長 千葉 道夫
出席者(委員)の氏名	登米市特別支援教育連携協議会 委員長 千葉 道夫 【会長】 認定こども園さくら幼稚園 園長 片岡 大助 【副会長】 豊里こども園保護者会 会長 佐々木 良 東和児童クラブ利用者 千葉 麻衣子 南方子育て支援センター利用者 小林 扶貴子 村上電業株式会社 代表取締役 村上 正弘 株式会社高田商店 及川 成美 子育てボランティアサークル「遊ぼう津山っ子」 須齋 香織 社会福祉法人恵泉会 常務理事 佐藤 吉春 登米地方保育所協議会 会長 小野寺 千香 民生委員児童委員協議会主任児童委員 部会長 河内 正治 ゆりかご保育所 所長 佐々木 浩子 以上 12名
欠席者(委員)の氏名	以上 0名
登 米 市 関 係 課 (事 務 局 職 員)	市民生活部 部長 佐々木 美智恵 〃 次長兼福祉事務所長 武田 康博 理事兼少子化対策推進監 永浦 広巳 福祉事務所子育て支援課 課長 伊藤 奈美 〃 課長補佐 阿部 陽子 〃 課長補佐兼児童福祉係長 志賀 健 〃 課長補佐兼子ども保育係長 佐藤 祐一 〃 課長補佐兼子育て支援係長 木川田 崇 〃 技術主幹兼家庭児童支援係長 新妻 志保 〃 主幹兼母子保健係長 佐々木 伸哉 〃 子育て支援係 主査 石川 悟 〃 〃 主事 千葉 七彩 〃 〃 主事 佐藤 泰地 〃 〃 主事 佐藤 芽依

議 題	【議事】 (1) 第三期登米市子ども・子育て支援事業計画素案について
会 議 結 果	【議事】 (1) 第三期登米市子ども・子育て支援事業計画素案について → 原案のとおり承認
会 議 経 過	別添のとおり
会 議 資 料	【事前送付資料】 資料1：第三期登米市子ども・子育て支援事業計画（素案） 【添付資料】 資料2：第三期登米市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
事務局	【開会】 それでは、定刻となりましたので、只今から令和6年度第2回登米市子ども・子育て会議を開会いたします。 本日の会議は、登米市審議会の公開に関する指針第5条第1項の規定に基づき傍聴席を設けておりますことをお知らせいたします。 それでは、開会にあたりまして千葉会長よりご挨拶をいただきます。
会長	【会長あいさつ】
事務局	これより議事に移ります。本会議におきましては、登米市子ども子育て会議条例第5条第1項において会長は議長となると規制しておりますので、今後の議事につきましては千葉会長に議長をお願いしたいと思います。それではよろしく願いいたします。
会長	それでは次第の3の議事に入ります。第三期登米市子ども・子育て支援事業計画素案についてとなっております。計画書をもとに事務局から説明受けたいと思います。よろしく願いいたします。
事務局	当日配布資料の第三期登米市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて説明 資料1-第1章について説明
会長	説明が終わりましたので、質疑を受けたいと思います。ご意見ご質問等ございませんでしょうか。では、第2章お願いいたします。
事務局	資料1-第2章について説明
会長	はい、ありがとうございます。では、第2章の中身についてご質問ありますでしょうか。よろしいですか。 私の方から、えっと4ページのところにあるんですけども14歳以下の20年間に15%だったものが11%に、登米市の人口の11%となっている、中学2年までですね、年齢が。その代わり65歳以上の高齢者が20年前は25%だったのが、今は35%すごいこう

事務局	業績を見ると本当に少子高齢化だなんて実感しました。よく話題に出で来るのが、登米市で産むところってないじゃないっていうのを良く聞くんですね。でも先ほどの説明だと全面的な少子化がある。じゃあ登米市に産婦人科があれば増えるかっていう問題があるかなって思いますが、近隣だと例えば石巻に日赤ありますけど、子どもが出産されているのか、大崎だと市民病院とかありますけれども、じゃあその石巻とかは登米市と比べて14歳以下が何%なんですかと、大崎とか病院があることでどれくらい少子化の歯止めになっているのか、この辺の情報は何かありますか。 今の近隣の状況についてお答えしたいと思います。栗原市と石巻市と大崎市の3つ調べております。 各市町村ホームページ、それから宮城県の統計数値の方で拾った数字になりますが、令和2年の4月1日、そして令和6年の4月1日、それに対する減少率でございます。減少率の高い順番から言いますと、まず栗原市が令和2年4月1日で66,565人、令和6年の4月1日で61,230人になり、5,333人減少し、減少率が8.01%です。 登米市は減少率が2番目に高く、令和2年4月1日の77,959人だったのが、令和6年4月1日には72,754人で、5,205人減りまして、減少率が6.68%になってます。 次に、石巻市になりますが、令和2年4月1日が140,133人で、令和6年4月1日が132,671人となり、7,460人減少し、減少率は5.32%です。 近隣市町村のうち一番減少率低かったのが大崎市になります。大崎市は、令和2年4月1日で127,876人、令和6年4月1日で123,083人となり、4,793人減少し、減少率は3.75%になっております。 なお、今会長の方からありました、年少人口の部分になりますが、これも減少率が高いところから言うと、栗原市が13.9%の減少率、登米市が13.7%、石巻市が10.8%、大崎市が10.2%という減少率となっております。 以上でございます。
会長	はい、ありがとうございました。 ちょっと数字的に減っているのは確かだなと思います。 やっぱり病院があるだけじゃなく、プラスアルファのメリットも必要でしょう。 はい、ありがとうございます。 何か他にございませんでしょうか。では、第3章をお願いいたします。
事務局	資料1-第3章、第4章の説明

会長	はい、5つの方針がありましたけれども、何かございませんでしょうか。 すべて網羅してる分すごくいろんなことがありましたけれど、もうちょっとこう詳しくお聞きしたいことがあれば。
委員	幼保小の連携について、お願いとお聞きしたいことがあります。 未就学児の迎えていう認定こども園、幼稚園、保育園は小学校への引継ぎを取りまとめられます。 どこの認定こども園も保育園も施設側は子ども達をスムーズに小学校に送り出したいと思って引継ぎをします。 ところがですね、学校、小学校側の温度差がありまして、スムーズにしたいと思っていても、なかなか難しいと。それで、何を言いたいかっていうのは、前から言ってるんですけど、引継ぎをする前に、小学校から連絡が来ます。 いつ、何時から、引継ぎをしたいと文章等で来るんですけど、学校に来いと言われるケースが多くて、佐沼小学校と中田地区はまとめてやっていただけるんですけど、一部の学校でうちさ来いというふうに来るんです。 認定こども園や保育園は3月31日まで保育をして子ども達も来ています。で、小学校側は先生がある程度落ち着いた時期に来てくれというふうに言われますので、忙しい時期に、そういう要請が来るもんですから、学校で来るように、言えって言うんです。 私が言えば良いんですけど、ちょっとあれなので、やっぱりそういう話をするとか来てくれる学校もあるんですけども、やっぱり来いと、引き継ぎに来いというスタンスが小学校側に見られる。それは毎年先生方も異動があるので、言う機会があるたびに私は訴えるんですけど、なかなか理解がもらえないです。 だから、本当は教育委員会の方に行ってお話しはしたいと思っているんですけども、やっぱりスムーズな連携、支援を必要とする子だけではなくて、たくさん子ども達が小学校に行くわけですから、一人一人大事に考えてますので、それに対して小学校側の姿勢をもう少し目線を低くして、保育施設側に合わせてもらってないのかなと。 我々にはあんまり関係ないかもしれませんが、いろんなこと言わないと、なかなか伝わらないものですから、それをせずには通れないというふうに思っております。 高校も中学校も小学校も保育施設も繋がるというような、そういうイメージで、地域で子ども達を育成すると。 そして、切れ目のない子ども達の支援が必要なので、そこを理解して改善していただければなというふうに思います。
会長	はい、ありがとうございました。 文科省と子ども家庭庁の位置づけ。 大きな枠組みがあって、本来であれば子ども家庭庁が文科省を飲み込むべき感じなのかなってそういう風に思います。 子ども家庭庁については窓口2つあるんだよね。

委員	だから、どちらも連携しながら見ていくようにね、今の件に関して言えば情報をもらうだけじゃなくて、こういう子がいるので、この子は多くの目で見守っていかないといけない。 それには幼稚園、こども園、保育所での様子を見に来てくださってというのが一番なんですけど、うまくいっていない。
事務局	言いたいのは、施設側は小学校の先生と連携取ることを願っています。 だから、やっぱり子ども達のことをお互いの目でしっかりと応援できるような、そういう体制をつくっていただける。 それがやっぱり役所でないとできないので、お願いしたいなと思います。
会長	ご意見の方ありがとうございます。 教育委員会からは、今日来てはいないんですけども、子育て支援本部幹事会の中には、教育委員会の方もメンバーとして入ってございます。 計画については、関係各部署と調整を図りながら記載の方をしていくわけですが、幹事会等で、今、お話しのあった小学校と、幼稚園、引き継ぎの部分、それから会長の方からお話しのありました、支援を必要とする子達の、その行き先の部分も含めて考えていく必要があると思いますので、こちらにつきましては、幹事会等や、教育委員会の部署の方にもお話をさせていただいた上、検討させていただければと思いますのでよろしく願いいたします。
事務局	はい、ありがとうございます。 居場所づくり、21ページの上段ですね。この部分の詳しい説明があったので、2の多様なニーズに対応した子育て支援サービスの充実にあるのが、29ページの親子が安心して集える居場所づくりの中のファミリー・サポート・センター事業というものがございます。 これ、なんかすごく興味を引くような題名だけに、ちょっと説明をいただけますか。
	資料の29ページ下段でございます。こちらにつきましては、子どもを預けたいというご家庭の方がいらしたときに、その預け先が近くに、家族とか親族がいないといったときにお困りの方と、一方ですね、子育て等が一段落したとか、自分の仕事が退職されたとか、日ごろ時間に余裕があるといった形で、子どもの面倒を見ることができるといった、協力する方がいたら頼みたい方と、あと子どもを預かってもいいよというような方の登録をいただきまして、まず子どもを預けたい方、預かってもいいという方とマッチングをさせて、お世話をする事業でございます。

	この事業につきましては南方の子育てサポートセンターの方で事務局を行っておりまして、そういった方々についてのマッチングを行い、子どもを地域で見守るといった事業となっております。
会長	はい、ありがとうございます。 先ほどの説明だと73名が名簿登録しているしているということで、各地区、旧市町村9町にある、いらっしゃる。
事務局	はい、預かることができるという点と町域を跨いだ形で、預かれる方のご都合とかもございしますが、町域に限らず受けられる、頼みたいっていう意見が一致すれば、そこで子どもを見てもらうというような形で事業を進めてございます。
会長	縛りはないということですね。佐沼に住んでるから、米川の人に頼む。登米市内だったらどこでも良いと。こういうのは知らなかったですね。あったんだ。活用事例とかがあるとちょっと身近に感じるなと思います。 他にございますか。お願いします。
委員	登米市ボランティアサークルの代表として出てるんですけども、現在保育士もしてますし、主任児童委員もやってますし、いろいろなことをやらせていただけてるんで意見を言わせていただきたいと思います。 この事業をやるのは、すごく素晴らしいことだと思うんですけど、現場をもっと見て欲しいというのが一番ってことで、保育現場は朝の7時半から18時半まで、0歳児から、たくさん預かって、私たち18時半までの勤務でも、18時半に来るお母さんたちもたくさんいらっしゃいます。 そういう現場で私たちが親支援をしなくちゃいけないと、とてもとても大変な事業をしています。 それは仕事としてやるのは当然なんですけれども、現場の保育士はあれもしなくちゃいけない、これもしなくちゃいけないと、とても重労働で辞めていく先生もいるし、病気になっちゃう先生もたくさんいるんですね。 この事業、親支援が多くて、保育士支援ってやっぱり大事だよなっていうのは常を感じるんですね。 私も後期高齢者になるんですけども、もうちょっと頑張って働こうかなみたいな感じで働いて、ボランティアもやってるんですけども、仕事は仕事で子どものことを思ってやっていますが、一時預かりとかも、やります、やります、やります、やりますって全部書いてることやります、やりますって、誰がやるのかなっていうのをすごく痛感にこれを読んで感じるんですね。 資料を見ても、何だかだんだん疲れてきてしまったのは、ごめ

	んなさい、事実です。 魅力ある登米市とするために、若い人の活力がなくちゃいけないっていうと、年寄りもみんな、後期高齢者だって元気な人たちがたくさんいるから、その人たちがもっともっと活力ある、魅力ある町にするために子育て支援とかいろんなことをやらなくちゃいけない。 もちろん、この資料を作らないといけないのもすごくよく分かるんですけども、現場をいっぱい見て欲しいなっていうのを一番に感じました。魅力的なまちづくりで、いっぱい今日言いたいことなんて書いてあるんですけども、そこまで言うと、ちょっと、欲張っちゃうので、あまり言わないんですけども、笑顔が見れる子どもっていうのは、やっぱり親たちも笑顔にならなくちゃいけないんですね、一番は。 親が笑顔でないと子どもが笑顔にならない。そのためには、働いて疲れてたら駄目なんですね。 だから親も楽しく訴えできる場所づくり、仕事づくりという言葉も考えていかなきゃいけないと思うんですね。 登米市も、どこの市も、どこも後期高齢化で少子化、全国のことですが、魅力あるまちづくりをするためには、本当に一步一步の積み重ねが大事だと思うんです。 もちろん、仕事も大変で疲れてるけども、自分が笑顔になって子供が笑顔になって、ここに住んでてよかったなってなるために会議をしてるんだと思うんですね。 だからそのために、もちろんこのいっぱいの資料を見ながら、これもこれをもってすごく重たくなるんだなって、子ども達がわくわくするような案がもうちょっといっぱい出るようにしていきたいななんて思うんですけども、いかがでしょうか。
会長	はい。今、誰がするのって話ですね。 登米市の人口で言えば、仙台と同じことできるわけがない。 だけど、やんなきゃいけないってことが同じなのだと考えると格の違いが大きすぎるんじゃないかなと思うんですね。 身の丈に合った、登米市というキャパに合ったものを精査する必要があるんだろうなって感じはしますけれども、まあ計画案だから、あとで補助金を確保する選択があるのが大事なんですから。だけど、取捨選択すること、優先順位をかける、地域で必要な、身の丈に合ったやれるところで事業を進めていくことが大事かなと思います。 ありがとうございます。
委員	子育てボランティアでパフォーマンスとかいろんなことを他のこといろいろやってますので、子どもを笑顔にするために、まだまだ頑張ってますので、活用してくださいよろしくお願いします。
会長	続けて、第5章ありましたね。お願いします。

事務局	資料-1 第5章説明
会長	それでは全体的な部分でも結構です。特に興味関心があるところでも全然問題ないですのでご意見いただければと思います。 はい、お願いします。
委員	あの、子どもの年少人口がだんだん減っていると思うんですけども、その前に結婚していない30代～40代ぐらいの男女がいますよね。その人たちをうまく結婚させるようなことはしてるような感じはするんです。 町内会の人にも50代の人で結婚していない人がいるんですけど、そういう人たちが結婚してれば子どもの人口が増えると思うんです。 どこにでもいると思うんですけどそういう人、町内会には必ず1人か2人か3人は結婚してない人いるんですけど、そういう人たちをうまくまとめさせるようなことがあって、施策を考えながらすれば、子どもの人口も増えるし、登米市の人口も少しは増えるのかなと。 ただ、住みよいことだけを考えるんじゃないくて、他市がやるような違うことを考えながらやれば良いのかなと。 難しいとは思いますが、課題だと思うので、それを1回考え直すことも大事なのかなと思います。
委員	今の良い質問で関連なんですけど、今日うちの職員でまだ結婚していない職員何人いるのかなってことで、委員長とお話をしていたら、女性で20代～30代前半が13人。男性が今おっしゃたように、ちょっと年齢が高い人もいるんですけど全部で15～6人ぐらいこれから結婚してほしいなど。で、地元に着定してほしいなどと思いながら、いろんな職員がいますので。 私たちの年齢で彼氏いるのとか、いつ結婚するのとかもう聞けないですね。そういう話ができない時代になってきたので、マスコミでも結婚する4組に1人がマッチングアプリで出会って結婚するというふうな報道もあるんですけど、本当に今おっしゃったように、子どもを増やすには結婚する、そして結婚したいと思ってる若い人たちがどこにいるのかっていうのをちょっと確認してもらって、情報提供はしますから。 各職場にも結構いると思うので、その前提となる子どもを産んで育てる核をつくるっていうのを考えても良いのかなって思いますので、ぜひ、こういう課を立ち上げてもいいんじゃないかって思います。
会長	ぜひ、場を提供していただきたいですね。 ありがとうございます。

事務局	少子化に向けた給付、その前には結婚、婚活のご意見いただきました。確かに、登米市の婚姻数なんですが、令和元年のときは、253組ありました。それが令和6年度だと、35%減の164組しかいません。たしかに、少子化と考えれば、日本であれば、結婚した後の出産っていうのがほとんどだと思います。それが一番の少子化対策、婚姻数を伸ばして、子どもを産んでいただく取り組みは非常に重要だと思っております。 現在、登米市では栗原市と一関市と平泉の4自治体の中で、連携しながら広域的な婚活事業というものを展開しております。さらに、宮城県の結婚支援サポートセンターですとか、青年婚活サポートセンターと連携しながら、各種事業に取り組んでおります。 たしかに、この事業で全てが賄えるかっていう部分については市内のうち、未婚者の方、結婚適齢期の方がどれだけいるか、その人たちがどういった形で支援を求めているかっていう部分でも、当然課題もあるかと思しますので、実際婚活の担当部署のまちづくり推進部の方で担当しておりますので、私たちの方から、今いただいたご意見を伝えながら、登米市として、実際その結婚需要で捉えれば、極めてプライベート的な問題ではあるにせよ、行政がその中でどういった関係で支援できるかっていうのも、1度原点に立ち返りながら検討して参りたいと思しますのでよろしくお願いいたします。
会長	はい、ありがとうございます。 マッチングアプリすごく今若者使っている、私の知り合いでもいるんですけども、それで出会って結婚するっていう。実はなかなか機会がないんですよね。だけど、そのマッチングアプリは本当に使われているから、こども家庭庁などで安心できるものを子育て支援課で主催とかさ、安心できるものがあれば、場の提供はできると思います。 ありがとうございました。 では事務局案でよろしいでしょうか。
委員	異議なし（拍手）
事務局	それでは、ここで閉会にあたりまして、片岡副会長からご挨拶をお願いしたいと思います。
副会長	【閉会のあいさつ】 【閉会】